

平成23年度「読書活動推進モデル校」

読書に親しみ、心豊かに生きる児童の育成

～学校・家庭・地域とのつながりの中で～

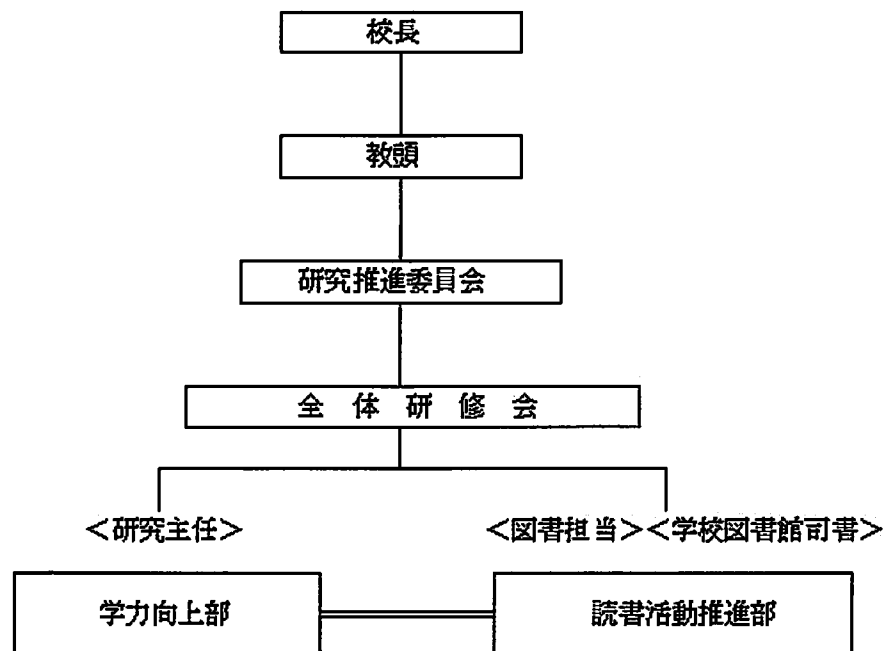
輪島市立鶴巣小学校

1 研究主題設定の理由

本校では、朝読書の活動に加えて、2年前から親子読書や図書ボランティアによる読み聞かせを行ってきた。親子読書に関しては、各月の23日から1週間「親子読書ふれあい週間」として、家庭での読書活動を進めてきた。その結果、家庭での読書への関心が高まり、親子いっしょに読書の時間を取ることで、親子のコミュニケーションの時間が増した。また、図書ボランティアや教職員による毎月1回の読み聞かせは、朝読書の充実につながっている。これらの取り組みの結果、本の貸出冊数も増えてきた。

今年度は、昨年度の取り組みを継続しながら、学校—家庭—地域とのつながりをより一層、密にしていきたい。そうすることで、児童は、いろいろな本に出会い、読書の楽しさを味わう契機になると考える。そして、読書嫌いと思われる児童が本を手にするようになったり、読みたいと思う本のジャンルを広げたりして、個に応じた読書の質的向上を図ることができると考える。

2 研究組織



3 研究計画

(1) 研究事項

- ①読書意欲を高めるための工夫・方法
- ②読書量を増やすための工夫・方法
- ③読書の質的向上を図る工夫・方法
- ④学校—家庭—地域と連携した読書活動推進の工夫・方法

(2) 実践内容の概要

①学校の取り組み

ア 朝読書の充実

月火水の10分間(8:15~8:25)、学級担任と共に朝読書に取り組む。

月1回、図書ボランティア3名、司書、校長、教頭、学担による読み聞かせを行う。

イ 読書後の感想やおすすめの本の紹介文掲示(読書週間 年3回)

ウ 学校図書館の環境整備

見やすい書架の配置や本との出会いコーナーの新設等を実施する。

エ 図書アンケートの実施

児童の読書に対する意識や新規購入本のリクエストなどを把握する。

オ 図書購入の工夫

読書意欲を継続させるため、購入時期を複数回に分ける。

カ 民話の紙芝居化

総合的な学習の時間等を活用して地域の民話を紙芝居にする。

キ 図書館司書による読み聞かせ(昼休み)

②学校—家庭—地域と連携した取り組み

ア 図書ボランティアの活用

月1回、教科書「本は友達」コーナーにある本の読み聞かせをしてもらい、国語の授業とのつながりを深める。

イ 「親子読書ふれあい週間」の設定(毎月23日から1週間)

親子読書記録カードを発行し、取り組み状況を把握する。

保護者の親子読書に対する感想を把握する。

ウ お話会の開催

学期に1回ずつお話ボランティアサークルを招いてお話会を持つ。

エ 地域の民話を聞く会の開催(親子参加)

学校行事あじさい祭り(6月24日)の際に、公民館の方々に、地域の民話を紹介して頂く。

オ 紙芝居の発表

地域の民話を紙芝居にし、公民館祭り(10月30日)・保育所訪問で披露する。

③読書活動の普及・啓発

ア 全国読書週間に合わせ、読書活動を進める講演会を開催する。

イ PTA 広報誌に読書活動推進の成果を掲載し、地域に配布する。(650部)

ウ 図書館便りの定期発行(毎月23日発行)

貸し出し冊数や親子読書の取り組み状況、読書の大切さなどを発信する。

- エ HPを活用して、読書活動に関する情報や新しく買った本の紹介をする。
- オ 市教育セミナー(11月13日)で市民に読書推進の取り組みを発表する。
- カ 市教師発表会(2月1日)で読書推進の取り組みを発表する。
- キ 報告書(研究の検証と感想文集など)を作成する。

4 具体的な実践からの抜粋

学校図書館となかよし

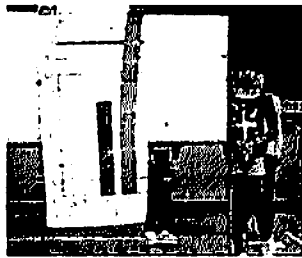
(1) 読書意欲を高めるために

①学校図書館司書との連携

図書購入では、購入時期を複数回に分け、その都度、児童がリクエストする本や児童に人気がある本を含めるようにした。ONE PIECE やパイレーツオブカリビアン などアニメや映画の小説版なども購入するようにした。これらの本は、実際、児童に人気があり、予約リストに10人もの名前が並んだ。貸出時には、学校図書館司書が、好きな本とともに、待っていてくれるという安心感、親近感が児童の足を学校図書館に、向かわせている。



②ひとりひとりの貸し出し目標設定



9月図書委員会の集会で、児童一人一人が自分の貸し出し数を知り、1年間では、何冊読めるかという目標設定の場を持った。目標達成のため本を借りる励みになった。

目標は全校児童で6000冊
(1人120冊)

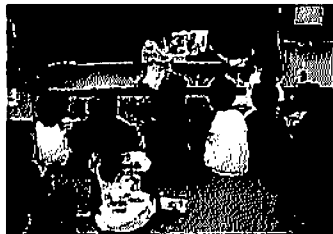
(2) 読書量を増やすために

①朝読書の充実

読書の時間確保と習慣化をめざして、月1回は3名の図書ボランティアさんと教職員が各学年に入り、読み聞かせをしている。ボランティアさんには、全学年の国語の教科書「本は友達」コーナーのコピーを渡して、その中から読み聞かせの本を選んで頂いた。



お話となかよし
学校長も読み聞かせ



お話となかよし
(図書ボランティアさん)

②お話会の開催

「お話を楽しむ会」とし、お話ボランティアサークルの方々をお招きして開催した。発達段階を考慮して、低学年と高学年に分けて実施した。(学期毎に1回、1年間では、それぞれ

れ3回ずつ実施) 児童が、お話の世界に没入するひとときとなった。また、紹介された本を、学校図書館に借りに来る児童が増え、読書意欲を喚起した。

お話となかよし 2学期 (低学年)
「親子でお話を楽しむ会」

お話となかよし 1学期 (高学年)
「科学的な読み物を楽しむ会」



また、学校図書館司書によるお話会や児童図書委員会のお話会も、月1回開催している。



お話となかよし
(図書委員会児童による
お話会)

お話となかよし
(図書館司書による
お昼休みの読み聞かせ)



③「親子読書ふれあい週間」の推進

毎月23日から1週間、本を通してふれあうことのできる親子読書を実施している。この取り組みも3年目を迎えて、しっかり習慣化されていると言える。

(3) 読書の質的向上を図るために

①朝の読み聞かせで国語関連の本を紹介

今年度はボランティアさんに、国語の教科書「本は友達」に掲載されている本の読み聞かせをお願いした。

朝、読み聞かせて頂いた本は、その後貸し出されることが多くなった。

例えば、朝、読み聞かせて頂いた本、「あるひ あひるがあるいていると」(3年「本は友達」より)の場合、リズム感のある読み聞かせに児童が興味をそそられ、話題となり、その後その本やそのシリーズも含めて学校図書館から借りる児童が20人近くにのぼった。

広げよう、読書の輪
「本は友達」コーナーの本を読み聞かせ



5年「本は友達」から
「天のシーソー」

②「校内読書週間」における紹介文やポップの作成

2学期の校内読書週間には、国語「本は友達」コーナーの本や国語の教材文と同じ作者の本

など、国語の授業と関連する本を選んで、低学年は本の紹介文を書く活動、高学年はポップを作成する活動に取り組んだ。全校的な取り組みということで、積極的に本を読み、相手意識を持って作成した。

読んだことを広めるため、児童の目につきやすいところに掲示し、その場所には、掲示を見た児童がメッセージを添えることができるように付箋を置いた。

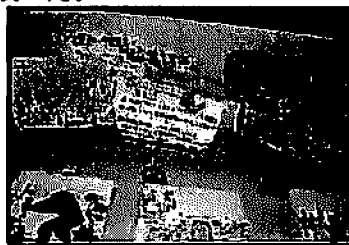
ポップは、本とともに展示し、すぐ借りられるように、貸し出し簿も置いた。

低学年19名の紹介文に、メッセージが43枚貼られた。そのうち「読んだことあるよ。」が10枚、「読みたくなった。」が10枚あった。

高学年は、ポップ表現のため、叙述にしっかり目を向けることが出来た。29冊分のポップに対し、それらの本の貸し出し数が43冊にのぼった。

校内読書週間は、児童の本の選択の幅が広がるよい機会になった。

広げよう、読書の輪
「校内読書週間」



高学年
ポップの展示
(児童玄関前)



低学年
紹介文と貼られた
付箋

③読書につながる国語の授業

授業に関連した物語や民話・昔話などを朗読や紙芝居、人形劇で表現し、他の学年に対して発表する場を設定した。発表を聞いた児童からは、「その本を読みたい。」という感想が聞かれ、読む本のジャンルを広げることにもつながった。

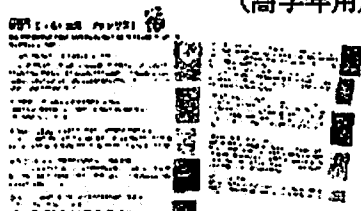
3年生が12年生へ発表
3年「三年とうげ」に関連して「へらないいなたば」の朗読

広げよう、読書の輪
国語の授業から



④ブックリストの作成

(高学年用)



発達段階にふさわしい本を選んでほしい、高学年になると読書離れしていく傾向をくいとめたいという願いから、鶴巣小学校図書館のブックリストを作成した。ラミネートして各自にもたせている。

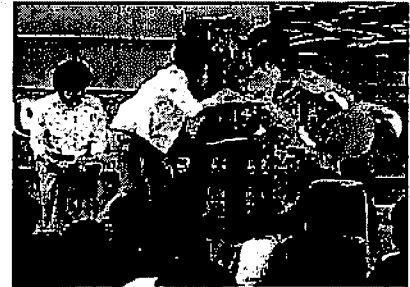
(4) 学校—家庭—地域と連携した読書活動推進のために

①「鶴巣の民話を楽しむ会」開催と紙芝居作り

あじさいの学校と言われる鶴巣小学校では、毎年6月に「あじさい祭り」が行われる。その第2部を、「鶴巣の民話を楽しむ会」として、児童に鶴巣の民話の語りをかきせる場を設定した。鶴巣公民館を通じて地域の方4名が快く引き受けて下さり、「歌波の乳もらい地蔵」と「惣領の蛇池」という二つの民話を語って下さった。民話を通して、地域の人とふれあい、ふるさとの豊かさよさを実感したひとときとなった。

その後、4年生は「惣領の蛇池」と「リカの小袖」という民話を紙芝居にした。まず、保育所で披露し、園児とふれあった。さらに、10月の鶴巣公民館祭りに参加して、地域の皆さんに披露した。たくさんの地域の方から、「じょうずやあ。」「なるほど。」と、ほめられ、児童は達成感を味わった。

読書によるつながり
民話「惣領の蛇池」



② PTA 講演会

11月、PTA講演会に、はるかぜ文庫の中橋範子さんを招き、「こどもの本が与えてくれるあたたかな時間」という演題で、お話をいただいた。

保護者からは「中橋先生に本をよんでもらって、あたたかい気持ちになりました。」「本があまり好きではないので、子どもに読んでやるのが少ないのですが、家に帰ってさっそく読んであげたい。」という感想が聞かれた。「本の読み聞かせの最大の良さは、子どもが、愛されているという安心感を持つことだ」という中橋先生のお話が、保護者から保護者へと伝わっていくことを願っている。

読書によるつながり
PTA講演会



③ 学校図書館便りで、読書に関する情報を発信

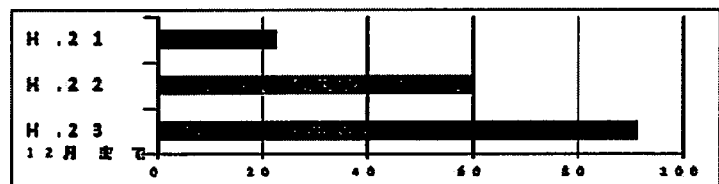
図書館便り10月号では、「親が子を思う気持ちは、みんな、共通」というタイトルで、「忙しいときでもOK、やり方を工夫して親子読書を」と呼びかけた。このように、図書館便りでも読書の大切さ、良さをアピールしている。

5. 成果・課題

【成果】

- ・読書意欲を高め、読書量を増加させることが出来た。
- ・国語の授業に関連する本の紹介は、読書意欲の喚起とともに、読書の幅を広めた。
- ・文章を読むことへの抵抗感が軽減されてきた。
- ・学校-家庭-地域とのつながりが深まった。

<児童1人の平均貸し出し冊数>



【課題】

- ・読書意欲を維持しながら、読書活動を継続していくこと。
- ・いろいろな教科の学習との関連を図った読書活動の推進に取り組むこと。
- ・親子読書の時間を確保すること。